

(様式第4号) 第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会 会議概要

1 審議会名	第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会
2 日 時	令和7年10月3日 午前10時00分から正午まで
3 会 場	市役所南庁舎 5階会議室
4 出 席 者	川口伸哉委員、窪田富子委員、児玉卓文委員、佐藤和雄委員、高木夏子委員、竹田貴一委員、手塚早由委員、間島博徳委員、増田榮美委員、南村昭夫委員、村上香屋子委員、八木叶子委員、山本進委員
5 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、春原文化政策課長、宮下文化政策担当係長、荻原交流文化芸術センター館長、堀内交流文化芸術センター副館長、山寄市立美術館館長、小平生涯学習・文化財課 文化財保護担当係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年10月14日

協 議 事 項 等

1 開 会 (会 長)	
2 会長あいさつ	
3 報告事項 (事務局)	
(1) 前回の策定委員会でいただいた意見の対応について	
(2) 配布資料の説明について	
ア 資料1 第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想の取組結果について	
イ 資料2 第三次上田市総合計画第6編第1章について	
ウ 資料3 第二次基本構想後に行われた関係法の改正内容について	
4 協議事項	
第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想の骨子 (案) について	
(会 長)	資料4、4-1、4-2について皆さまからご意見・ご質問等あればお願いしたい。
(委 員)	基本的に「育成」ということに変えるということについては、賛成。ただ、自由形農民美術の「山本鼎」についてだが、全国区の知名度がある。山本鼎の影響というのは「洋画」の部分に関してはかなり大きなものがあり、「石井柏亭 (いしいはくてい)」、「倉田白羊 (くらたはくよう)」、「岡鹿之助 (おかしかのすけ)」という当時文化勲章を受章された方も上田を訪れている。山本鼎が上田、更には県外へもかなり影響を与えたと思う。資料1のこの最後の「地域作家の顕彰」ということが書いてあるが、これは非常に大切なことである。美術関係で長野県内を見て歩いているが、上田の美術について少し引け目を感じるころもあったが、実は上田を訪れている美術作家のことを考えると、決して他地域にも負けていないものがある。それが表に出てきていないというのがとても残念である。また、収蔵庫の関係等もあると思うが、上田地域の作家の作品が収蔵されていないのがもったいないという気がする。そのような上田地域の作家たちのことを大事にして紹介していただけたらと強く思っている。
(事務局)	おっしゃっていただいた通りで、私共の使命として調査・研究を続け、上田地域の作家たちを多くの方々に知っていただく必要があるということ強く感じている。ただ、基本構想の中にどのような形で文章として入れられるのかというところは、今後皆さまと一緒に検討させていただければありがたい。山本鼎もちろんだが他にも顕彰作家がいるので、他の事業とのバランスを取って考えさせていただければと思っている。
(委 員)	ルールを説明いただいた中でこの基本構想を作成しなければならないということで、様々な関係する法律や計画についての「関連図」を次回までで結構ですが、出していきたいと思う。

- (事務局) 委員がおっしゃったように関係法や関連計画などを図にして整理することを検討し、次回お示ししたい。
- (委員) 第二次基本構想の評価シートを拝読させていただいて、率直な感想とすると、サントミュージーゼと美術館のやったことがずっと書いていて、例えば文化政策課がやっている「文化支援事業」の話とかが一言も触れられていないことに違和感がある。この20年をどう評価するかという中で、「市民の文化活動の充実」と「子どもたちの文化芸術活動の充実」を大きな2つの柱としてというところは前回も前々回も謳っていて、今後もここをこうしていきたいというのが1つのスタンスかなというところと、文化芸術基本法等の改正内容ということもあって、観光と街づくりとも連携していくということが今回視点として盛り込まれている。1点、2つの柱というところで、もう少し市民の参加のサポートの部分も、もう少し入れて欲しい。文化支援事業が、現状だとあまり件数が増えていっていないということもあるし、今後市民の文化芸術活動の充実を掲げていくのであれば、もう少し周知広報に力を入れた方が良いと思う。あと、専門家の方にお聞きしたいが、上田の日本遺産の件で、令和5年度でアンケートがあって、文化芸術振興の基本構想知ってますか？というタイトルだったが、中身はほとんど日本遺産のことと、サントミュージーゼのことだけだったということがあった。これは文化観光推進法が基にあったのかなと思ったが、素人的には文化的なこととリンクしないと感じた。中途半端に文化なのか観光資源なのか、拝見しているとよく分からないところがあった。その辺は、例えば関係法からきているとかそういったところも含めて表現・総括した方が良いのではないかと。賛否ということとは別として、取組のスタンスとしてのところは、注意して落とし込んでいただければと思う。
- (事務局) 第二次の基本構想については、教育委員会が作ったという経緯もあり若干教育委員会的な要素が多かったかなというところはある。第三次からは、教育委員会ではなく市長部局が作成することになり、第二次では文化財が先に記載していたが、第三次では文化芸術の記載を前に出して文化財の記載を後ろに下げるということにした。それから二次の時はサントミュージーゼに関する記載が多いという御意見があったが、これはやはりサントミュージーゼは多くの公費を投入して造ったということもあり、何とか良い利活用をしていきたいということが念頭にあったと思う。先ほど委員がおっしゃった一番上に総合計画があって、その下に今回の基本構想があり、さらにその下に交流文化芸術センターと美術館の運営計画が来る。どうしても計画というのは上にいけばいくほど総合的な話になり、下へいくほど細かい話になってくる。皆さまの御意見をお聞きしながら、上田市全体の文化芸術の振興を図るような計画にしていきたい。第二次の計画については、サントミュージーゼを検証していると思われるかもしれないが、三次についてはサントミュージーゼも書いていくが、サントミュージーゼのことばかりの記載にならないよう、育成などの部分についてもしっかりと書いていきたい。
- (副会長) 本年夏、最終回ということで上田城跡能、28年間続けてきたが、当初は文化芸術協会の中で、地方でも本物を皆さんに観ていただくという趣旨でいろいろな団体の方に声をかけてスタートした。28年経ったが今回最終回ということになってしまい、市民の方々も是非残して欲しいという声が多く、市長に訴えかけた方もいた。長年続けてきた良いものが、行政の応援がないと無くなっていくというケースもこれから出てくるのではないかと考えている。そういうものを市民協働ではないが、無くなるということになってから手を出すというのではなく、大変なところに手を差し伸べて、良いものを残していくという体制づくりを是非お願いしたい。また、城跡能再開を形を変えてでも是非お願いしたい。
- (事務局) 文化芸術協会も団体数が減ってきてという御相談をいただいているが、私共も出来る限り広報等々応援してまいりたい。基本構想にも関係団体の方を支援していきますということで記載をさせていただいているが、また引き続き取り組んでまいりたい。
- 上田城跡能の関係については、形を変えて再開というのはここでは申し上げられないが、そういう意見をいただいているということを受け止めさせていただければと思っている。
- (委員) 「民間による劇場の運営や、歴史ある映画館の継続運営、各地域での文化芸術団体の活動など、この20年間で上田市の文化芸術の状況は大きく前進したのではないかと考えます。」

とあるが、そのあたりをどう盛り込むのかということも頑張らなければいけない。また、城跡能のように大切にしておきたいものだけれど日常から離れていってしまっていて、現役世代は参加できないものが沢山あるというところもあると感じている。「文化芸術の担い手の育成」の「育成」とは何を育成したいのだろうか、と思う。子どもたちに生の文化芸術を見せていくとか、地域の地盤を作ってきたアーティストなどの発掘や、「見える化」をしていく動きもとても大切で、私たちもそれをやってきていると思う。サントミュージゼは運営をするのに予算がきちんと確保されているのに対し、セレスホールは文化事業の予算が限られているように思う。「サントミュージゼが広域で連携する」ってどういうことなのだろうかと思ったり、読んでいけば読んでいくほど「市民とは？」のように、主語がよく分からない。話は変わっていくが、私は普段障がいのある人たちと演劇を作っているがそれについてはまだ触れられておらず、サントミュージゼの運営委員会では触れられているということなのだろうか。先ほど話があったが、ピラミッドの上にいけばいくほど概念的で具体的なことを盛り込むことは難しいとは言いつつも、これを読む限り、丸子のこととか何も書いていないし、今ある日本遺産も頑張ってきてきたこととは思うが、やってきたことは書いてあるけど、これから積み上げていくかもしれない市としてフォーカスしておいた方がいいかもしれないところはあまり書かれていない。

(事務局) 委員が言ったどういったものを盛り込んでいったらいいかということは、実際、具体的に委員の皆さんにお出しただいてそれを盛り込めるかどうか皆さんで議論できればと思っている。具体的にご意見をいただければと思う。

(委員) 「育成を基本理念とする」というのがよく分からない。誰の育成なのか主語が分かりにくく、子どもなのか市民一人一人なのか。主語が分からないから、沢山のことをやっているとこの先は分かるが、軸になるものがないので、この先の10年どこに向かってこの文化芸術を振興していくのかが見えにくい、というのが率直な感想。第二次の基本構想から第三次のものを作っていたと思うが、変化は大きくはない感じがする。この先の10年を見たときに、この10年を見ても時代が変化しているのに、あと10年先延長戦で大丈夫なのかなと感じた。サントミュージゼを核としたということもそうだが、上田市内の素晴らしい施設があつてその連携とかがもう少し構想の中に入っていると、その繋がりから人が繋がっていくというのが見えるし、文化芸術が市民にとって必要なものでないと振興ができないと感じている。身近にある感覚がもう少し盛り込まれないと、この文章だけを読むと難しいことが書いてあるなというのが率直な意見。私は文化芸術を振興していきたい。人にとって文化芸術は絶対必要だと思う。そこをもう少し盛り込んで欲しい。どうやったらもっと身近に感じてもらえるかということがこの10年でももう少し入っていくといいのかなと思うもう少し目的をはっきりさせ、構想の中で核となるものをはっきりさせていきたい。

(事務局) サントミュージゼと他の文化ホールとの連携については、若干触れているところはある。「育成」が誰なのか？という主語が分かりにくい、という部分については、子ども、各団体等いろいろな主語が「育成」に関わっているので、わかりにくい部分があると思う。どのように記載するかは検討させていただきたい。「人にとって文化芸術が必要である」ということは、本日の資料ではお示しできていないが、第1章で文化芸術の必要性をしっかりと記載をしていく。

(委員) タイトルの順番の変更が「育成」が先にきて「文化遺産」が後にくるとするのは個人的には良いと思う。話したいことの1つ目として、「育成」の主語が分かりにくいというお話があったが、私は「主体」と「対象」が分かりにくいと思っている。「育成」をする主体は上田市になるのだろうかというところが気になっている。文化芸術活動を支える団体や人材の育成をするのはリストをもらったこの方たちが、育成していくのではないかとすると、上田市というよりも上田市は団体を支える側なのではないか。言葉遣いとしては「文化芸術活動を支える団体や人材育成への支援」とか、もう少し細かく見ていけるのではないかと考えている。対象も「一般市民」なのか「子ども」なのかということも細かく決めていくのか、あるいは大きな括りで「市民」とするのかは要検討なのかなと思う。「育成」をする主体が

どこになるのかを、もう少し深く考えていけないか。個人的に気になったのが、資料「文化芸術における各主体のイメージ図」の中の「市民」の部分で私は「上田映劇」という文化施設に携わっているが、民間の文化施設に携わっている或いは民間の活動をしている人は「市民」に分類されるのか「事業」に分類されるのか気になっている。「市民」の中の分担では「自らが企画運営に携わり鑑賞事業などを開催します。」とあるので私たちも市民なのかなと思いつつも「市民」は「参加します」、「発表します」、「参画します」とあるのでどちらかという受動的な感じがする。「市民」は分けるかはさておき、文化活動を主体的に取り組んでいる人たちと或いは受動的に受けていく人たちと分けるのがいいのかは分からないが、役割分担がもう少し明確に記載されると分かりやすくなって動きやすくなるのではないかと思っている。二つ目は、「どこに向っているのか分からない」要は核になる話のところでは思ったのが、この計画の「キャッチコピー」はあるのかということ。そもそも言葉が難しい。結構長くて言いづらい。例えば「上田市子ども・子育て支援事業計画」「上田市未来っ子かがやきプラン」とか違う名前をつけている。親しみやすい愛称みたいな。この芸術文化に関する計画も親しみやすい名前がつくとそれが核になるのかなと考えている。愛称は考えるご予定はあるか。

(事務局) 事業を行う側と受け手の概念図での整理については、また考えたいと思う。キャッチコピーについてどんなキャッチコピーがいいのか検討させていただきたい。

(委員) キャッチコピーを委員の皆さんの宿題にしては？

(事務局) 本日の会議後に委員さんにアンケートをお願いする予定だが、その中で御記入をお願いできればありがたい。

(委員) 「第2章の7ページ第三次の施策のア鑑賞事業の充実」の内容が書かれているが、小中学校としては、「招く事業」より「出向く事業」を多くお願いしたい。上田市では多くの鑑賞事業を実施していると思うが、学校は色々行事も多い。一番ネックになるのは交通手段。だから、行きたくとも行けない学校も多々あるのが実態。できれば予算がつく限りは、各小中学校に出向いて体育館等での鑑賞事業をお願いしたい。子どもの情操面や、心の豊かさを育む重要な事業であると思うので、できれば「出向く事業」を多く実施していただけるとありがたい。もう1点、文化財関係についても、学校に来ていただいて授業等やっていただけるとありがたい。現在、社会科では税に関する出前授業や信毎等の出前授業を行っているが、是非郷土学習についても専門の方を派遣していただいて出前授業をやっていただけると、学校内であれば学校も都合をつけることは十分可能だと思うので是非そのような方向になればと思っている。

(事務局) 私共では、サントミュージゼでアーティストを公民館等に派遣して直接一流のアーティストの音楽等を鑑賞していただく事業を実施している。また、出前講座にも取り組んでいるのでそういった部分で少し文化の部分にも広げることができればと思っている。ただ、現実を申し上げると、学校の行事は校長会で前の年に決まっているので、土日に授業をやりたいと思っても、新しい事業は難しく、平日は通常の授業があるということで、学校へ行ってコンサートを実施したいと考えていても、学校の方で「難しい」と回答のケースがある。その辺りの調整をどうやってつけていくかが大事だと思う。特に新規の土日の授業は、学校では無理だと言われていて、サントミュージゼ等から芸術家を派遣したとしても平日の場合は、授業を調整してやらなければならないという部分もあるので、今後はその辺りの検討が必要だと思っている。

(委員) (先ほど御発言の) 委員はサントミュージゼのアウトリーチ事業で来てもらったことがあるのか。

(委員) 派遣してもらったことはない。

(事務局) アウトリーチは中学校へは行っていない。小学校へ行かせていただいている。

(委員) 今、おっしゃっていたのは中学校にも是非派遣をお願いしたいということか。

(委員) そのとおり。

(事務局) 別件になるが、新規の事業を企画した際に、校長先生は良いとおっしゃっていただいても、

担当の先生からは、対応できないと言われることがある。その逆もあり、担当の先生から「うちの子どもたちに参加させたい」というお話があっても、教頭先生や校長先生に断られてしまったということがあった。学校の授業が一番ということは分かるので、その予定を調整するというはなかなか厳しいということは私共も感じている。そこを何とか折り合いをつけて是非サントミュージゼ、音楽村に来ている一流のアーティストに学校へ行っていただきたいと思う。今、サントミュージゼは5年生を対象に学校を回っているので、それを中学に広げるというのはハードルもあるが、学校と行政との調整が必要ではないか感じている。特に中学校は予定が詰まっております、そこに全校同じ時間帯にアーティストの演奏を聴いてもらうのは難しいと思うし、2月頃に予め日程を決めておかなければいけないというところがネックではないかと思っている。

(委員) スケジュール合わないことや、子どもたちの移動の部分をどうすれば良いか。まず話し合える関係性のある相手が、他分野にどれ位いるのかによって、解決策が見えてくるのではないか。今だと「文化芸術」と「教育の現場」の他分野でどう調整をするかという具体的な話。お互いに現場の状況を理解した状態で、コミュニケーションを取り合える関係性作りをどうやっていくのか、というところも10年後を見据えていくと視野に入れていかなければいけないのかもしれない。中学校には迎え入れる隙間はないけど、でも来て欲しいという需要があるのは重要。

(事務局) 先ほど市の説明の中で、文化振興については他分野との連携が大事だという話があった。当然教育分野も中学校もそうだが、民間の方々との連携も大事なので、それについて具体的に考えていなかった部分もあるので、今後どうやって連携していったらいいか考えていきたい。先ほどから表現のことで課題をいただいているが、行政にはいくつか計画というものがあり、直接市がやるという計画は非常に作りやすい。例えば子どもたちの医療費を無償化するかそういった計画は非常に分かりやすいが、文化の計画というのは誰かに働きかけてやっていただくという、行政が直接やるというよりは行政が支えて何かをやっていくという間接的な表現が多くなってしまいう計画なので、「主語がないからわからない。」というのはその通りかと思う。出来るだけ分かりやすい表現にしたい。

(委員) 文化支援事業について、私はこれを使わせていただいたことがあって、正直言うと使いにくい支援事業だなと思っている。なぜかという赤字前提の支援事業なので、誰を対象にしているのかすごく分かりにくい。例えば、私は演奏する側なので演奏しながら、主催もしている。そうすると、私は主催者なので出演料とかはここから払えない。主催する人は基本的に自分が主体的に動く人だと考えると、あまり遠くからアーティストを呼んで事業を行うパターンはそんなに多くはないのではないかな。なので、誰を対象にした支援事業なのかということを確認して欲しいのと、支援の充実を検討していただけると、今後市民が主体的に使いやすくなれば、自発的に様々な企画が動いていくのではないかなと思う。検討をお願いしたい。

(事務局) 文化支援事業については、見直しが必要な時期に来ていると思っている。いただいた御意見を参考に検討させていただきたい。

(委員) 今までの中で、文化財については議論できていないが、いかがか。

(委員) これについてどうこうという意見はない。私が気になるのは、皆さんも気になっているが「育成」という言葉が何回も出てきている。文化芸術を「行政」に育成させるというのは、非常に嫌な感じがする。御意見の中に「育成」とか「育てる団体」あるいはそういう方々を支援する、こういう言葉は良いが、「行政が文化を育成する」というのは嫌な歴史を思い起させる。言葉の使い方なのかもしれないが、気を付けていただきたい。そういう点でいくと、文化財の保護とかは地域の住民の方々が支えてくださるのが一番であるが、これからは行政が何らかの形で財政的な支援等していかないと守っていけない。その辺のところはきちんと書かれているが、ただ、書かれてはいるが現実的にはほとんど難しい。お金がない。一応理念はきちんと書かれている。これはこれでよろしいと思う。それからもう一つ、市民の皆さんと掘り起こしていかなければいけない文化財、今、指定されているのは国のレベル、県の

レベル、市のレベルで指定されているが、そこから漏れてしまっているものがまだあるのかもしれない。それを非常に強く感じたのが、数年間にわたった仏像の調査。古代の仏像が出てきた。お金はかかったと思うが、上田市で展覧会をよくやってくれたと思っている。非常に財政的には苦しいところではあるが、皆さんに還元をして、注意を喚起し、古代の仏像に対する理解や、自分たちが成り立っている社会がそういうものを通じてどんなふうになり立ってきたかということ、市民の皆さんに御理解をいただくことは大切なことであると思う。また、理解すると同時に自分が生活しているところがどんなに素晴らしいところか、ということを感じていただければと思う。理念的には文化財について書かれていることは、私はこれで結構だろうと思っている。

(事務局) 文化財については、(今御意見をいただいた) 委員が専門であるので、個別に相談をさせていただく機会があるかもしれない。その場合、相談した内容については皆さんにお示ししたい。

5 その他

前回議事録の確認について

次回会議日程について

6 閉 会 (会 長)